

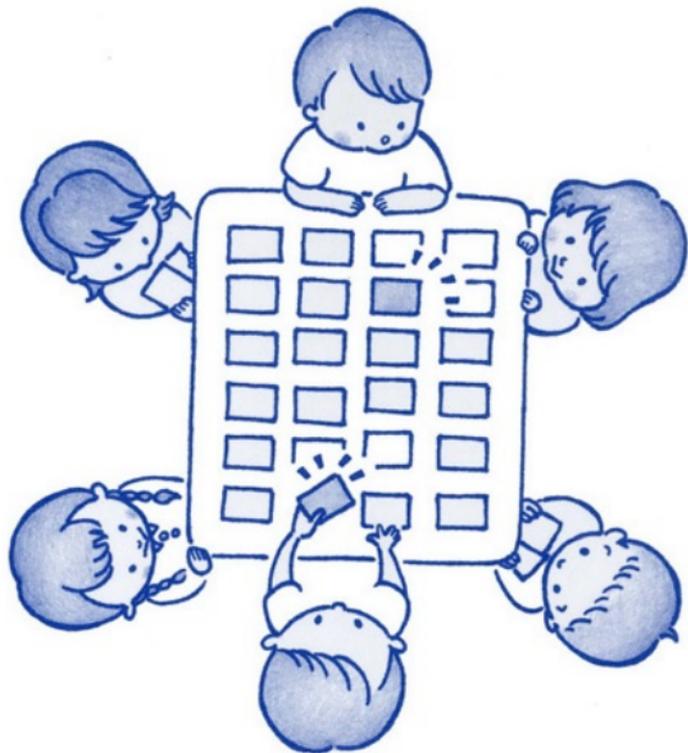


## ■絵つなげゲーム

【人数】3～6人

【遊び方】

- ①カードをそれぞれに5枚配り、残りは裏向きにして山にする。1番上のカードをめくって横に置き、これを“場札”とする。
- ②順番を決め、場札の絵柄と関連のある手札を探し、場札の隣に出す。その際、どこが関連しているのか説明し、みんながそれを認めればOK。どこにも置けなかったり、説明に納得してもらえなかった場合は山から1枚カードを引く。
- ③これを繰り返す、手持ちのカードが早くなくなった人が勝ち!

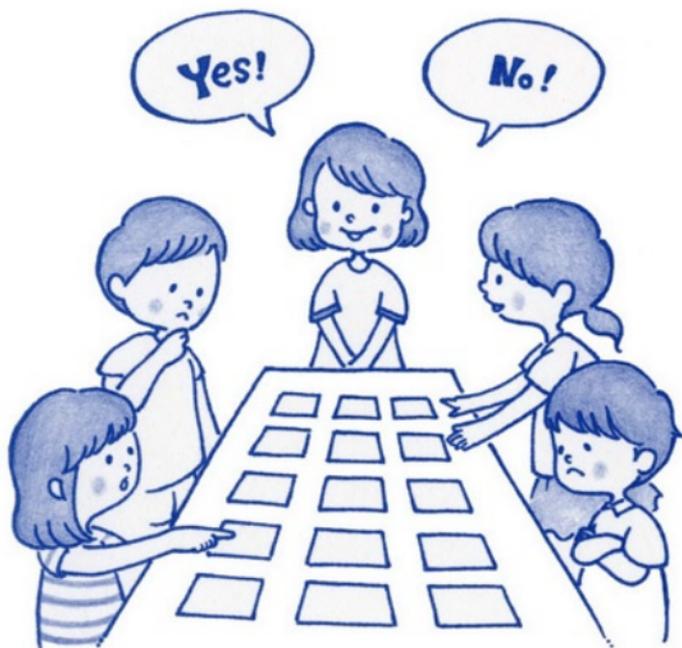


## ■ 神経衰弱ゲーム

【人数】3～6人

【遊び方】

- ①すべてのカードを裏向きにしてならべる。
- ②順番を決め、2枚カードをめくる
- ③めくったカードの共通点を探し、みんなに説明する。みんながそれを認めればカードを手に入れることができる。また、認められなかった場合や共通点を説明できなかった場合はめくったカードを元にもどす。
- ④カードを手に入れた枚数が一番多い人が勝ち!

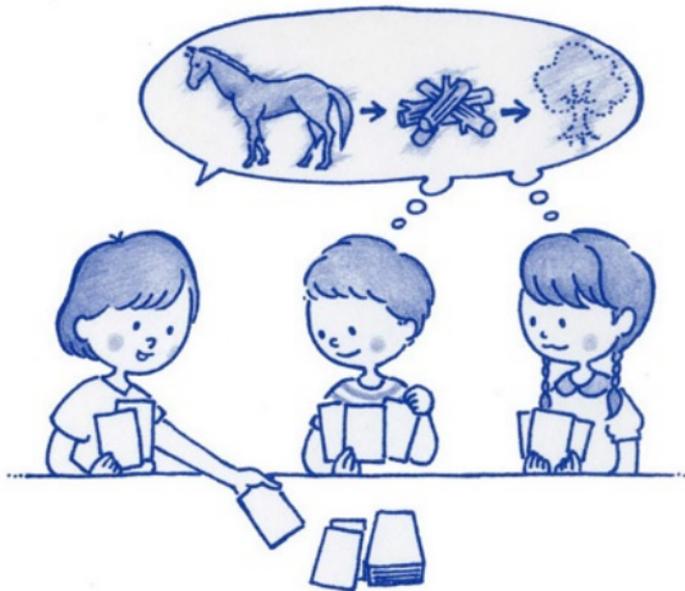


## ■推理ゲーム

【人数】3～10人

【遊び方】

- ①すべてのカードを表向きにしてならべる。
- ②親を決め、その親は心の中でカードを1枚選ぶ。
- ③親以外の参加者は順番に、カードについて「はい・いいえ」で答えられる質問をする。例えば「そのカードには人物が描かれていますか?」「風景が描かれていますか?」など。
- ④全員が質問したら、親以外が推理した絵を一齐に指差す。
- ⑤当たった場合は親が交代し、外れた場合は質問を繰り返す。



## ■しりとリゲーム

【人数】3～6人

【遊び方】

- ①カードをそれぞれに3枚ずつ配り、残りは裏向きにして山にする。
- ②順番を決め、最初の人は手持ちのカードを1枚だして、そこに描かれているものの単語をいう。例えば「馬」が描かれていたら「うま」など。
- ③次の人は、それに続く言葉を手持ちのカードから探し、場に出してしりとりを続ける。みんながそれを認めればOK。認められなかった場合や出せるカードがなかった場合は山から1枚カードを引く。
- ④これを繰り返し、手持ちのカードが早くなくなった人が勝ち!

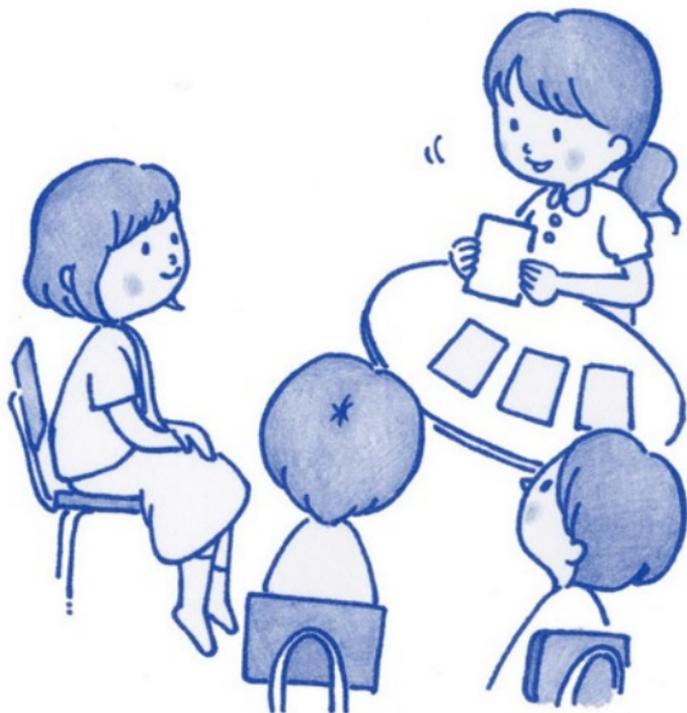


## ■キーワード連想ゲーム

【人数】3～6人

【遊び方】

- ①すべてのカードを表向きにしてならべる。
- ②親を決め、その親は心の中でカードを1枚選び、その作品について一言キーワード(イメージ)をいう。例えば「わいわい、がやがやしている」「人がふわふわ浮いてみたい」など。
- ③親以外の人はその作品についてのヒントなのかを連想し、一斉に指差す。
- ④当たった人はカードがもらえる。複数の人が同時に当てたらじゃんけんをする。みんなが外れた場合は、親がカードをもらえる。
- ⑤親を変え、順番に繰り返す。カードを手に入れた枚数が一番多い人が勝ち!



## ■4コマ漫画をつくろう!

【人数】3~6人

【遊び方】

- ①カードをそれぞれに4枚ずつ配り、残りは裏向きにして山にする。
- ②手持ちのカードを使って4コマ漫画のように、起承転結のお話を作る。どうしても思いつかない場合は、山から1枚引き、手持ちのカードの1枚を裏にして山の一番下に置く。
- ③お互いに自分たちの作ったお話を発表し合い、グループの中で代表を決める。
- ④最後にグループごとのお話発表会を行う。

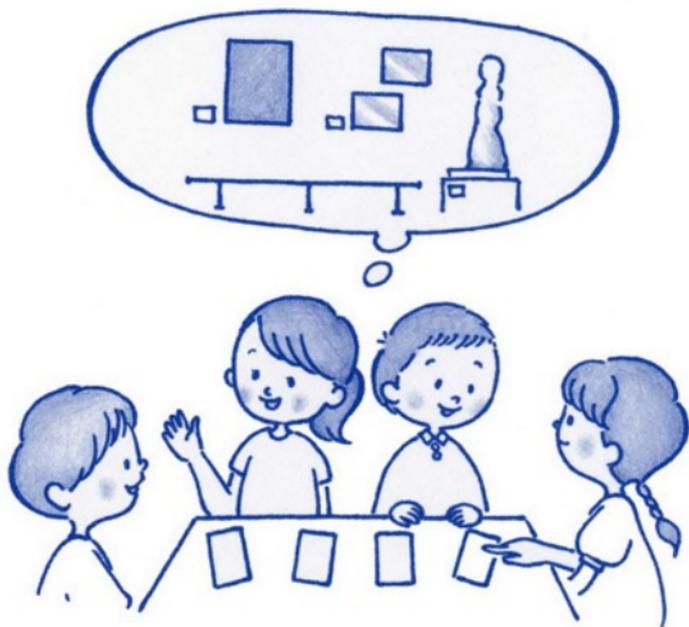


## ■カレンダーをつくろう!

【人数】3~6人

【遊び方】

- ①すべてのカードを表向きにしてならべる。
- ②順番を決め、春・夏・秋・冬もしくは2ヶ月分(1・2月、3・4月…)に合っている作品を選ぶ。そのときに作品を選んだ理由を説明できるようにしておく。
- ③選んだカードについて発表し合う。



## ■ 展覧会をつくろう!

【人数】3~6人

【遊び方】

- ①すべてのカードを表向きにしてならべる。
- ②それぞれにテーマを考える。例えば、花や人物や動物など。
- ③順番にカードを選んで取っていく。4枚選んだところで、展覧会のテーマを発表し合い、グループの中で代表を決める。
- ④最後にグループごとの展覧会発表会を行う。展覧会名や選んだ理由など。